

編集後記

委員の交代で、教育広報委員会は新米委員ばかりとなりましたが、なんとか広報誌HIROINを予定どおり刊行することができました。原稿の依頼を快く引き受けてくださった方々、投稿してくださった方々、ありがとうございました。

さて、9月5日に開かれたセンター研究開発費報告会は、教職員や学生など22名の参加者があり、予定の時間をオーバーするほど活発な意見交換がありました。本号掲載の3件に1件を加えた4件の発表があり、いずれのソフト/コンテンツも「広く利用してほしい」という思いが強く伝わってくるものでした。9月14日に開かれたセンター主催の公開セミナーでは、17歳から71歳までの58名が「初めてのホームページづくり」に挑戦しました。また、9月21日には「教育と地域の情報化を考えるシンポジウム 2002」が大鰐で開催され、センターが事務局として運営の中心を担いました。東北・北海道の各地から100人を超える参加者を迎え、議論は深夜に及びました。

このように、センターは単に学内に情報環境を提供するにとどまらず、幅広い活動を展開する時代になったということを改めて認識した次第です。広報HIROINにも、「情報」をキーワードにしたさまざまな角度からの投稿が寄せられることを期待しております。

(小山)

弘前大学総合情報処理センター
教育広報専門委員会

小野寺 進 (人文学部)
小山 智史 (教育学部)
須田 俊宏 (医学部)
松木 明知 (医学部附属病院)
D.N.ネンチェフ (理工学部)
岡田 潔 (附属図書館)
丹波 澄雄 (総合情報処理センター)